

(仮訳)

第24回日EU定期首脳協議
2017年7月6日、ブリュッセル
首脳声明

安倍晋三日本国内閣総理大臣、ドナルド・トラスク欧州理事会議長、ジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長は、本日、ブリュッセルにおいて、第24回の日本と欧州連合（EU）との定期首脳協議を行い、以下の声明を発出した。

我々、日本及びEUの首脳は、我々の戦略的パートナーシップの強固さを再確認し、平和、繁栄及びルールに基づく国際秩序のために協力する決意を示すため、本日ブリュッセルにおいて会談した。我々は、民主主義及び法の支配という共通の価値、並びに開かれた、公正な、全ての人々に裨益する世界経済を共に促進する決意によって、引き続き団結する。これらは、我々を相互に団結させ、国際的により強固にする、平和、繁栄及びルールに基づく国際秩序のための、政治的及び経済的な戦略的パートナーシップの基盤である。

本日は、経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）の政治レベルでの大枠合意を祝う、日EU間の戦略的パートナーシップの新たな章の幕開けとなる日である。

高度に野心的で包括的なEPAは、我々の強固で変化する貿易・経済連携を強化し、未来への道を開く。この協定は、物品、サービス及び投資並びに鉄道を含む調達における市場アクセスに関連する問題とともに、非関税措置並びに地理的表示及び知的財産権の保護に関連する問題に対処することにより、日本とEUの経済をより緊密にする。この協定は、我々が将来の更なる緊密な協力のための、国際標準に対する日本とEUの共同のコミットメントを新たにし、強化することを可能にする。同時に、EPAに関する今回の大枠合意により、日本と欧州は、双方の価値を十分に尊重し強化する明確かつ透明なルールを伴う自由貿易が、我々の社会の繁栄を促進するための重要なツールであり続けることを世界及び我々の市民に対し示す。日EU・EPAは、保護主義に対抗する自由かつ公正な貿易のための戦略的なパートナーシップの基礎となる。

我々は、我々のそれぞれの交渉チームに対し、日本及びEUの双方において、早期に内部手続を開始できるよう、協定の迅速な妥結を指示した。

世界の平和、安定及び繁栄の実現のために共有された責任を持って、日本とEUはSPAの大枠合意にも達した。これは、我々のパートナーシップが成長し、新たな種類の挑戦に取り組むことを可能とする、より深く、より戦略的な日本とEUの協力のための枠組みを提供する。

ルールに基づく国際秩序が増大する圧力の下にある中で、EPA及びSPAは、日本とEUのパートナーシップの基盤を形成する、人権、民主主義及び法の支配を含む共有された価値と共通の原則を取り戻すものである。

我々は、明日のG20ハンブルク・サミットに出席する前の機会を捉え、気候変動による地球規模の脅威やその他の国際的な課題に対処するための共同の取組を含め、他の重要な分野における日本とEUとの協力について議論した。